



2009/10 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分地区 B

市原ロータリークラブ会報



第 2246 回例会 2010 年 1 月 20 日(水) SAA/加藤会員 会報担当/平野会員
例会場五井グランドホテル 市原市五井 5584-1 事務局 0438-38-3535

点鐘 市原 RC 会長 千葉精春 ソング 手に手をつないで

お客様 市原市剣道連盟 大沢孝文様 市原市剣道連盟 小原保孝様

会長挨拶 市原 RC 会長 千葉精春



下期に入り、もう次年度に向けての動きができました。
1 月 18 日からアメリカ、サンディエゴで国際協議会が始まりました。
織田吉郎 GE 当然参加しております。
そこで次年度の RI テーマ・ロゴが発表されました。
テーマは「Building communities Bridging continents」です。
過去の RI テーマはすべてロータリアン向けでしたが、今回初めて、地域社会・国際社会に向けたロゴとなっております。

そして、1 月 12 日発生のハイチの大地震、折しもこの 17 日に「阪神・淡路大地震」から 15 年を迎えたばかりです。その様な中、一週間過ぎた今尚、日本政府から、何らその対応に対し情報が出てきません。日本は地震に対し一番敏感な国のはずなのに・・・残念です。また、地区にも電話し確認しましたところ、まだ対応は何ら決まってないとのお答えでした。ハイチは北中南米において最貧国だそうです。国民の 1/3 に当たる 300 万人が被災し、10~15 万人が死亡との予測です。それ故、この復興には大変な時間がかかるでしょう。世界的な応援が不可欠です。宜しくお願い致します。

委員会報告

職業奉仕委員会 始関会員



炉辺会談

新世代育成委員会 斉藤会員



会計報告 川島会員



半期計算報告会及び会費納入のお願い

卓話



白鳥パストガバナー インド NID に参加して

2010 年 1 月 8 日(金)晴れ
国際ロータリー第 2830 地区パストガバナー関場慶博様の呼びかけでインド NID(国際免疫デー)に参加した。成田空港発組と名古屋空港発組に分かれて総勢 36 名(内女性 11 名)は空路インド・デリーに向かい、9 時間のフライトで現地時間 17:30(時差 3 時間 30 分)にデリー空港に到着した。
インドは南アジア随一の面積と世界第 2 位の人口を持つ大国である。

10 億人を超える国民は多様な民族、言語宗教によって構成され、複雑な身分制社会を形成している。ヒンドゥー教徒 81%、イスラム教徒 14%、キリスト教徒 2.5%、シク教徒・仏教徒若干という構成だ。ヒンドゥー教は牛や猿を神霊化する習慣やカースト制度などによりインド社会への影響は大きい。識字率は 58% という低さであり貧困に苦しむ人が多い国である。最近 BRIGs と呼ばれて成長している新興国の一国として注目されているが、近年、識字率 91% の中国とは GDP において大きく差をつけられている。

現地で見たい限りではインフラの整備は全く遅れている。いたる所で歩道を整備しているが、工事中でありながら仕事をしている気配を殆ど感じない。

ITの発達によるグローバル化の面白い一面もある。インドは英語運用能力が高く、人件費は廉価であり、ソフトウェア産業に優秀な人材が揃っているため、12時間の時差があるアメリカのシリコンバレーのソフト産業からネットを通してインドへ仕事を依頼することが多い。それはアメリカで夕刻の終業前にIT関係の注文をだしておくと、インドでは朝なので、注文したアメリカ側では就寝している間に、つまり翌朝にはインドから完成品が届けられるということだ。

空港の外に出ると11 という予想外の寒さに加え、乾季のため街全体が埃でうす汚れている。樹木も精気を失っている。埃が舞っているのか、霧なのかわからない。道路は輪タクに小さなエンジンを付けただけの3人の乗客を乗せるスペースがある三輪車が通行車両の半分を占めて、われ先にと隙間を見つけてはクラクションを鳴らしながら突っ込んで、くる。見事な走りぶりに感心する。喧騒と汚れ、路上生活者のテントの群れ、何をやる当てもない人人が溢れて露店通りや市場に大勢の人がたむろしている。

8:30に宿泊するホテルに着くが、警備人による空港並みの検査を受けてホテルに入る。昨年ムンバイのホテルで、テロによる大爆発事件があったことが思い出された。名古屋空港発組と合流する。同期のガバナーで、ある飯さん、斎藤さん、佐藤さん。鐘ヶ江さんと私を加えて5人参加している。国際協議会のとときの研修リーダーで、あった関場先生ご夫妻を囲んで同期のガバナーと遅い食事をする。

2010年1月9日(土)曇り

7時に参加36名が全員集合して結団式を行ってから野菜の多い朝食を採り、ネクタイを着用してNID実施前のセレモニー出席のためデリーの保健省長官(女性)の公邸に行く。車中から見る街は、オールドデリー地区とニューデリー地区とは際立って街の様子が違う。ニューデリー地区は官庁街と高級住宅が多く、警備員も所々に立ち、街も一応整っている。オールドデリーの地区は、空には鷹のような鳥が乱舞し、地上では人が群れ、わがもの顔に佇立している牛、やせた野犬が多く、すすけた古い建物、露店のような商売が無秩序に連なる街並、それにクラクションの喧騒と悪臭とが渾然一体となっている様子をなんと表現してよいかかわからない。

私たちの乗るバスに好奇心目が向けられ、母がいたいけな子供を連れて、また、二人連れの子供が中国雑技団のように身体をくねらせトンボ返りをしては物乞いをしている。

3010地区が独自で設立し、事業をしているROTARY BLOOD BANKを訪れた。5階建てのきちんとした建物で昨年は4万7千人の人に輸血する血液を供給している。なかの設備は清潔に保たれており、職員の仕事に対する熱意は素晴らしい。5年前、3010地区の元RI理事の献身的な行為によりこの事業はじまり、現在その事業は地域に大きく貢献している。一地区でこのような事業を行っているインドのロータリアンの底力を感じた。またロータリーが個人による奉仕がいかに大きく展開しているかを知る一助になった。

ポリオを完全に撲滅することはできないが、ワクチン投与によってポリオの蔓延、流行は抑えることができる。いま、アメリカでも40症ほど発生しているという。日本に結核病患者が未だにいることから理解できる説明だった。

保健省公邸の庭の天幕の下でプレスを集めてNID(国民免疫デー)のセレモニーが行なわれ“END POLIO NOW”のスローガンを確認した。そこにはワクチンを投与される幼児を連れて70人ぐらいの母親も参加していた。私たちと香港のロータリアンのチームが合流し、二日間投与の作業をすることになる、ドイツからのチームもやって来るそうだ。そこでポリオの資料とキャップ、エプロンを渡されて、まず、そこに待機している子供たちに投与し、子供の口中にワクチンを2滴たらすのだが、2滴の投与は思っている以上に難しく、指先に力を込めなくてはならない。投与される親子の信頼しきった顔が忘れられない。実にかわいいあどけない顔をしている。参加者全員で用意されたバイキング方式のランチを食べたが、ものすごく辛い香辛料にびっくりする。インドらしい感じのランチであった。

ホテルに帰る途中、26ヶ所あるインドの世界遺産の一つで、あるクトゥブ・ミナールを見学した。72.5メートルの高さを誇る世界一のミナレットは迫力十分だ。インド全土を覆っている赤い色の砂岩とインド産の大理石が使われ、建物の赤と白のコントラストが素晴らしい。

夜に公営のアショカ・ホテルで、開催されている第3010地区の地区大会二日目の夕食会に出席のため8時に会場に入ったが、まだ熱心に討議を重ねていた。2千人ぐらい入る会場は熱気むんむん。フォーラムに続きガバナーエレクト、ガバナーノミニーの挨拶が時間をオーバーしても悠々とスピーチしている。9時30分になりやっと食事となったが、会場がそのまま食事会場となり、バイキング形式のため混雑し、とても食事にありつけない。あきらめてホテルに帰り、そのインドレストランにて茨城県の地区の人たちとインド料理を楽しんだ。シャワーを浴びる時間もなく、明日のポリオ投与に出かける用意をしてそのまま寝ることにした。

2010年1月10日(土) 曇り時々晴れ

寒い朝だ、11~14人の3班に分かれ、ワゴン車に乗り込みワクチン投与の現場に向かう。約40キロの道のりを1時間半ほどで到着。デリーのロータリアンが用意した最初のワクチン投与のブースに入る。そこは、もの凄い悪臭と人混み、舞上がる埃、散乱されているゴミ、乳白色と濃い緑色した汚水が溢れて全く流れのないドブ、ひっきりなしに鳴らすクラクションの音が入り混じる凄まじいスラム街だ。その劣悪な雰囲気寒さが加わり、心身が萎縮し、しばらく身体が硬直してしまった。まもなく馴れて投与を開始した。

母親や兄や姉が連れてくる弟や妹に交替でワクチンの投与を始めるが、10人も投与すると指先と肩に疲れを感じてくる。どこからくるのか子供たちは次から次へとやってくる。現地の叔父さんがダブつて投与しないようにと右手の小指にマーカーで記しをつけている。終わると小さなボールか、鉛筆一本か、ホイッスルが貰えるので、要領の良い子は再び列に紛れこもうとしているのを見つけては引っ張り出していた。現地の叔父さん、保健婦らしい人の仕事ぶりに感心する。叔父さんがカシュウ・ナッツと甘い菓子を食べるように勧められて閉口したが、2~3粒口にした。

立っていても冷え込んでくるのに素足の子供もいる。いたいけな子たちの無事を祈りながら投与している自分に何ともいえない感動がこみ上げてくる。不思議なことだ。程なくして別な場所へ移動する。そこはもっと劣悪な場所でワゴン車の後ろのドアを上げてそこで投与した。ここの子供の頭は挨拶だけで、シャワーを浴びることなどないのかもしれない。子供の顔立ちもあどけなさが消えてきつい顔つきになっている。劣悪な生活からそうなるのかもしれない。

私の班の投与は2ヶ所だけだが、他の班は4ヶ所で実施したそうだ。帰りにこれも劣悪な街のなかにある病院に立ち寄りワクチンの保存状態を見た。冷凍庫の中にワクチンが保存されており、ここから現場のブースに運ばれていくそうだ。次々生まれてくる幼児に含ませるワクチンの製造と保管、輸送、投与する人の確保などを思うとポリオ撲滅にかかる費用が膨大になることも領ける。この辺りに来ると自動三輪車ではなく、自転車でこぐ輪タクが多い。食事もとらず、といってもとうてい食べる気がしない。ホテルに帰り、急いでシャワーを浴び、帰国のため空港に向かう。途中わずかな時間を利用して1562年に8年の歳月をかけて建築した世界遺産であるフマールン廟を見学した。左右対称の赤い砂岩でできた落ち着いた雰囲気の建物だった。この建築スタイルは有名なタージ・マハールにも影響したといわれている。

インドディラガンジー国際空港から夜8:20帰国の途についた。

インドNIDに参加した感想を列記する。

- ・ 二つの世界遺産からより、雑多な雰囲気のあるデリーの街とスラム街から受けた印の方がはるかに強烈であった。今回のインドNIDの参加はわずか日数だが考えさせられることが実に多かった。歴代RI会長が、水、健康と飢餓、識字率向上、を強調事項としていることに実感として受け止めることができた。これらは全てが有機的に関連している。これからはインド項にもっと関心を持っていこうと思う。
- ・ 先進国の科学文明の発達が進歩国の自然循環の形態を破壊しているといっても過言でない。スラム街のドブに散乱されているプラスチックの袋や固形物は地中に溶けないのでそのままの形で捨てられ、ドブの流れを止めてしまい、ドブには排せ物や生活排水が滞り、そこから異臭が放たれている。また街中のいたるところにもプラスチックのゴミが散らかり、ゴミ集積場所にも自然に溶解しないプラスチックのゴミが環境をより悪化させている元凶のような気がしてならない。
- ・ もしわが国の青小年がこの劣悪な場所に行ったとしたら、ただ単純にもう二度と行きたくないと思うのか、あるいは自分のおかれている環境に感謝し、人生や生活を見直す良い機会とするかです。後者でありたいと思う。



